



自己改革への取組み

Vol.2 (平成29年度上期)

農家組合員の所得増大 ・農業生産の拡大

地域の活性化・結びつき強化

1 TACの配置

(※TACとは地域農業の担い手に出向く専任担当職員)

平成29年度、TAC2名を配置して、担い手農家への訪問活動を展開しました(延べ329件)。農家とJAをつなぐ窓口として、担い手農家や農事組合法人などへ出向き、記帳代行による申告のサポート、コストカット手段の提案、営農相談などを行っております。



それが

農家組合員の
ニーズに応える体制の強化

青空市場・軽トラ市の開催

大船渡市、陸前高田市、住田町で、青空市場を開催し、生産者や関係団体などが、農産物や各種加工品を販売しました。お得な商品券の販売や、スタンプラリーなど、様々なイベントも行いました。



2 当JA初の夏秋野菜出発式の開催



平成29年7月に夏秋野菜出発式を当JA設立後、初めて開催しました。生産者や市場関係者、行政機関等の出席の下、夏から秋にかけて出荷最盛期を迎える「きゅうり・ピーマン・トマト」の生産販売額の目標達成や、安全な集出荷作業などを確認しました。

それが

販売事業の強化

農業・地域と共に生きる 協同組合の実現

JAおおふなとは「農家組合員の所得増大・農業生産の拡大」「地域の活性化」「結びつき強化」を自己改革の柱として、農家組合員の所得増大と地域活性化に全力を尽くしてまいります。

そのために「時代環境の変化に挑戦し「新たな芽」を育てる」をスローガンに第5次3ヵ年計画を策定し取り組んでおります。

JAおおふなとといたしましては、組合員総意のもと、自ら組織・事業のあり方を検討し、組合員が望む「農業・地域と共に生きる協同組合の実現」の為に「自己改革」を進めてまいります。

3 金融担当職員の農業体験



各支店の次長らが、管内の生産者ほ場で、大豆の播種、リンゴの摘果、菌床しいたけの収穫などの農作業を体験しました。農業についての理解促進や、生産者ニーズの把握、生産者との結びつき強化を図りました。

それが

農業生産振興

結びつき強化

地域の活性化

農家組合員の
所得増大



JAおおふなと 自己改革への取り組み Vol.2 (平成29年度 上期)

平成29年度の 取り組み計画

平成29年度 上期の 取り組み結果

農家組合員の所得増大・農業生産の拡大	農家組合員のニーズに 応えるための体制の強化	担い手担当職員のスキルアップを図るために営農指導員資格取得を義務付けます。	組織力向上支援事業に取り組み、集合研修3回、実践研修8回、述べ97名が参加しました。
		担い手に出向く専任担当者(TAC)を配置します。	TAC職員の外、金融担当職員が農家組合員を訪問し、「声を聴く運動」を展開しました。
		県下統一Web農業簿記システム導入による記帳代行・申告支援制度について専任担当者の配置による強化を行いました。	専任担当者を設置するとともに、利用組合員の増加に向け制度の内容紹介を行っています。(加入者7名)
	販売事業の強化と生産振興	首都圏でのさらなる販売拡大、取引拡大を図るため、岩手県知事をはじめ、JA全農いわて、県内7JA、生産者の代表の方々が関東市場を訪れ、これから出荷本格化を迎える夏野菜をPRしました。(上半期1回)	
		生産から販売までのトータルコストの引き下げ	水稲苗の供給単価の引き下げを行います。
	携強化	稲作等受託農家の組織化を行います。	大船渡市・陸前高田市・住田町にそれぞれ稲作受託組織協議会を設立しました。
		JAおおふなと青年部の再構築を行います。	「青年部設立準備会議」を発起人4人参加のもと8月9日に実施しました。
	6次産業化に向けた取り組みの強化	プロジェクトチームの設置により新たな開発を目指します。	平成29年8月に希望職員によるプロジェクトチームを立ち上げ、新商品の開発に向け協議を開始しました。
		6次産業化に向けた取り組みを展開します。	6次産業化に向けた取り組み強化として、組合員向け研修会(全6回のうち)を2回、15人参加により実施しました。
	地域活性化・結びつき強化	「農業まつり」「ふれあいまつり」等を開催し、多くの方々に、JAとの結びつき強化を図ります。	震災後初となる大船渡市農業まつり(10月21、22日)を開催します。
JAくらしの活動を通じた地域コミュニティの活性化への取り組み		食農教育に役立てていただくために管内の小学校の子供たちに、食と農の学習に役立つ雑誌「ちゃぐりん」を配布しています。	

